

SUPER 耐久シリーズ 2012 第5戦
in
鈴鹿サーキット



東 徹次郎
TOHJIRO AZUMA

ボディ交換&NEWカラーでの鈴鹿ラウンド！！

しかし悪い流れは変わらず・・・。

- ・開催サーキット：鈴鹿サーキット（5.807km）
- ・チーム：KOTA RACING&AGE♂AGE♂RACING
- ・マシン：Olive SPA NSX
- ・メンテナンス：TRACY SPORTS
- ・カーナンバー：＃70
- ・クラス：ST-3
- ・ドライバー：A NAORYU B 東 徹次郎 C 加納 政樹



予選（10月20日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

前回の岡山でのクラッシュで全損になってしまった為、今回からボディーを交換して参戦となったNSX。

金曜の占有走行ではABSのトラブルもあってNEWタイヤでのアタックまでいかず、予選がぶっつけ本番となってしまいました。

とはいえ、ボディー交換したこちらの方が自分のスタイル的には乗りやすかったなので、予選前から手応えを感じていたのも事実です。

今回のレースは変則的で、1時間のスプリント2レースということで、予選はベストタイムがレース1のグリッドでセカンドタイムがレース2のグリッドへというものでした。

自分のイメージでは鈴鹿はコース自体も長いですしNEWタイヤでのパフォーマンスを考えると、計測1周目と2周目しか無いと考えていました。

コースインしてすぐ位置取りを考えながらタイヤに熱を入れていきます。前との距離を取りながら特にフロントタイヤを意識して熱入れしていき、130Rを過ぎてからはアタックモードに入っていきます。

そして計測1周目、フロントの方が軽いNSXは、やはりフロントの熱の入りが遅い為にグリップが少なくアンダーステア気味。

S字はアンダーオーバーな状態のマシンをねじ伏せるようなイメージで攻めました。

その中でもマシンはコントロールしやすかったので、1周目は前日の自己ベストを大きく更新してそのときの4番手タイムへ。

2周目はタイヤの熱もしっかり入ってよりバランスが良かったのですが、最後のシケイン手前で前走車にひっかかり、抜きながらシケインの進入になってしまったのでロスが響いてタイムアップなりませんでした。

クーリングラップを入れて最後にもう1アタックしましたが、やはりタイヤの良いところは終わってしまっていて前の2週の計測タイムを上回ることが出来ず、そのままピットへ戻りました。

A ドライバー予選タイム：2'21.602（クラス 10 位）

B ドライバー予選タイム：2'18.230（クラス 5 位）

C ドライバー予選タイム：2'20.161

A・B 合算順位：レース 1 クラス 8 位

レース 2 クラス 9 位



決勝（10月21日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

朝のウォームアップでは予選まで響いていたABSトラブルのチェックを加納選手が済ませ、そしてNAORYU選手に交代して走りのチェックを、自分が決勝交換用のフロントタイヤの皮むきを担当して30分の走行はあっという間に終わりました。

最初のレース1は加納選手スタートからNAORYU選手へ。
そしてレース2はNAORYU選手スタート、自分がロングでチェッカーまでという作戦でした。

順調にスタートをしたレース1、加納選手はポジションを入れ替えながら安定したペースを刻んでいきます。

しかしレースが20分を迎える頃、35号車のZが1コーナーでオイルを出しながらコースオフしていく様子がモニターに映し出されます。

その直後、後方を走っていた数台の車両がそのオイルの影響でコースアウト……。今回海外レースと一緒にということもあってほぼ無線が通じない状況で、加納選手が無事クリアしたかわかりませんでした。

次に映し出された映像は、まさかのNSXが壁に当たって止まっている様子でした……。

加納選手はオイルを確認したもののどうしようもなく、マシンが勝手に左にスピンし始め、そのまま壁に当たりながらのクラッシュでした。

幸い加納選手に怪我が無かったのが不幸中の幸いでした。

ここで赤旗となり、レース1は終わります。

決勝：5位（赤旗提示によってレース終了）



第2レースは急遽マシンチェックもあるので、NAORYU選手から自分へスタートドライバーを変更しました。

レース1が終わってから、メカニックさんたちが懸命の修復作業です。ダメージも深刻でしたので走れるか全くわからないというよりも、2レース目は無理なんじゃないかという声もありました。

しかし、自分自身も走らないまま絶対に終わりとくなかったですし、自分はドライバーとしていつでも走りだせる準備をして、絶対にチェッカーまで車を持って行くという強い気持ちでいっぱいでした。



そして第2レースがスタートして20分程経過した時点で何とかマシンは走れるくらいまでは修復し、コースへ。

メカニックさんたちに本当に感謝すると共に、ここからが自分の仕事です。当然アライメントまでとっている時間は無かったので、ピットアウトして1コーナーへのアプローチですぐに後遺症が出てきます。

とりあえず真っすぐは走りますがステアリングは大きく右に曲がっていて、ブレーキング時には左にマシンが動こうとします。

そして2コーナーからS字へと入っていきますが、右コーナーではフロントの接地感が非常に少なく、やっと右に曲がり始めたと思うと今度はリアがすっぽ抜けそうになる状態でとてもペースは上げられません。

一度この周はピットへ戻り各部分のチェックをし、またすぐコースへ。

しかしどうにもペースを上げるには危険過ぎる動きなので、スロー走行しながら再びピットへ。

ここで左リアを少し調整してもらい、またコースに戻ります。

相変わらず曲がるのには苦勞しますが、すっぽ抜けるのだけは改善され何とか5クラスの最後尾と同じくらいのペースまでは上がりましたが、バイブレーションもあるし高い速度で荷重をかけるには危険な感じでした。

時間も無かったのでとりあえず走れるとだけ伝えてNAORYU選手へ交代し、自分が6周NAORYU選手が3周し、トータル9周でチェッカーを受けました。

しかし規定周回数には足りず、完走扱いにはなりませんでした。

決勝2：順位なし（規定周回に届かず）

ベストタイム：2'49.925（NAORYU選手）

2'39.367（東 徹次郎）



反省

今回、予選でしっかりタイムを出せたことは自分の中では良かった点だと思います。

前日NEWタイヤでの走行が出来ていなかったのでぶっつけ本番でしたが、マシンバランスも良くテクニカルな前半区間はトップと変わらないセクタータイムでしたので、本当に手応えも感じていました。

しいて言えば、エンジンパワーなどで劣勢である後半の高速区間でのタイム差を考えてもう少し前半でタイムを縮めていられればという、たればの思いはありますが。

シーズン前半と比べると、しっかりタイムを出すところで出せているという点で、自分の中でも成長を感じとれた予選になりました。



最後に

マシンをリニューアルして臨んだ鈴鹿ラウンド、今回も遠方までたくさんの方々に応援に来て頂き、本当に有難うございました。

今回何とか鈴鹿までにマシンも修復出来、スポンサー様や毎日遅くまで作業してくれたメカニックの方々に本当に感謝です。

だからこそ強い気持ちで臨んだ鈴鹿でしたが、今回も不運な要素でクラッシュということになってしまい、非常に残念で悔しい思いです。

しかしながら加納選手に怪我が無く、本当に安心しました。

ただ、このオイルによるクラッシュで亡くなられた方もいて、改めて自分たちが危険と隣り合わせだということも感じました。

それでも自分はレーシングドライバーですし、第2レースがあるなら、マシンが走れるなら乗り込んで走らせる気持ちでいっぱいでした。

スタートには間に合いませんでしたが、修復してくれたメカニックの皆さんには本当に感謝です。

前回、今回とクラッシュ続きでまともにレースも出来ず悪い流れが続いていますが、今回で本当に断ち切って、ここから上り調子でいきたいと思います。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2012 年 10 月 22 日

東 徹次郎